

一御切米扶持方相渡候時、小札之俵數を書付、手形と引替渡置候庭帳ニ記候本俵、右之札ニ引合、銘々爲割渡、端米ハ出役之御藏奉行、小渡帳ニ扣、小札引合可被相渡事、略○中

一御切米御扶持方渡候時、可成程ハ御藏切ニ相渡、殘俵無之、御藏明候様可被致候、若出俵ニ入少、細俵も有之候は、差米致し、本俵並斗立渡候様可被致候事、

一御切米ニ出候御米、御藏圖包之内上ニ御藏奉行可有封印候、且又御切米御扶持方手形包候上ニも、御藏奉行致印形可被置候、

一二條大坂駿府御番衆、并與力同心御切米之儀、二條登ハ春御借米、大坂駿府登ハ夏御借米ハ、無差札可被相渡事、

一三季御切米玉振候節、御藏奉行玉場へ出、朝五時より玉爲振可被申候、若直取之者、遅く參り候共、半時立候は、決而玉爲入申間敷候、且又直取之家來不埒にて、渡り候米不引取候は、其時之品ニ寄、御勘定所へ可被相伺候、勿論當日又ハ翌日請取主相知候は、吟味之上證文取之、可被相渡候事、略○中

右之通相心得、不時之儀有之候節ハ、可被相伺候、以上、

享保十九寅年九月

御勘定奉行

〔札差業要集中〕享保年中より文化迄御藏方荒増之扣略○中

寶曆四戌八月、是迄御藏米渡り廻シ、竿圖塀圖有之、其當ル壹はい貳拾俵不殘、貫目を掛、貫目違之分は、幾口に而も別々に計り立、總平均廻シニ付、貳拾俵共、貫目違に有之ば、貳拾口に計立、總平均廻シ、御仕來之御仕法之處相止、其以來如只今竿圖塀圖入、其貳拾俵圖に而、當り三俵計立、平均廻に相成、貳拾俵以下は、貳俵廻シ、五俵以下ハ一俵廻シに御定、但納方には、只今に而も貫目改有之共、御渡シ米貫目改は、其以來相止、略○中